

10. ナシ‘新高’のハウス栽培に適した果そう内番花（技術）			
[要約] ナシ‘新高’のハウス栽培（加温）では、果そう内番花は3番花の使用が望ましい。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758

## [背景・ねらい]

露地および雨よけ栽培では、良果を得るためには2、3番花を使用し開花後3～5日目に受粉すれば良い。加温し生育を促進するハウス栽培では、果形が縦長で変形果やみぞ果を生じやすいため、このような作型に適した果そう内番花を検討する。

## [成果の概要・特徴]

1. 開花後2日目までは、雌ずいが短く雄ずいに隠れやすいため、受粉作業時間を多く要した。開花後3日目以降は雌ずいが突出したため受粉作業が容易になった（図1）。
2. 果形指数は、開花後40日目までは、開花後3日目受粉より開花当日受粉の方が明らかに大きかったが、開花後60日目以降は大差なく、収穫時の果形指数も同程度であった（図2）。番花の影響は明らかでなかった（データ省略）。
3. 果重は2、3番花で大きく、1、4番花と比較して約100g大きかった（表1）。
4. 変形果の発生は、3、4番花で少なかった（表1）。
5. みぞ果の発生は、2、3番花で少なかった（表1）。

以上の結果から、加温し生育を促進するハウス栽培では、果そう内番花は3番花が望ましいと考えられる。

## [成果の活用面・留意点]

1. 出荷時期が8月上旬以降の作型で適用できる。
2. 加温し生育を促進するハウス栽培では、変形果やみぞ果が発生しやすいため、3番花を中心に2～4番花に受粉し結実を多めに確保する。

[具体的データ]

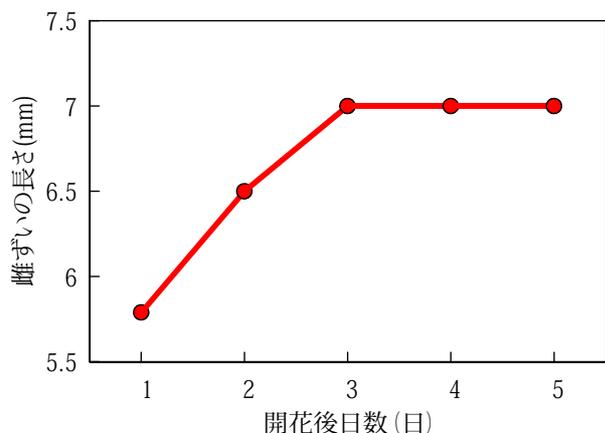


図1 雌ずい長の推移 (平成14年2月、新高)

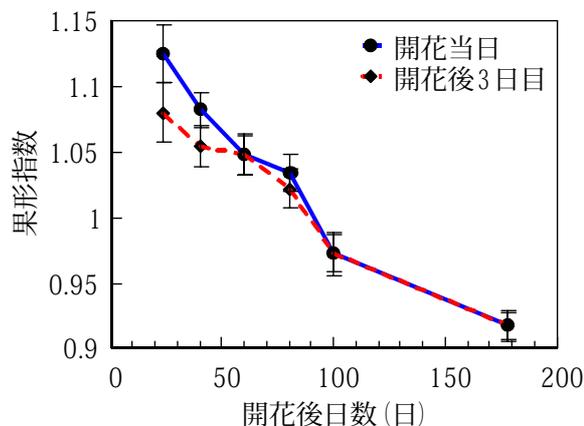


図2 受粉時期が果形指数に及ぼす影響 (bar:信頼率95%の信頼区間)

表1 果そう内番花の相違が果実形質及び結実率に及ぼす影響

果そう内番花	結実率 (%)	果重 (g)	果形指数	変形果発生率 (%)	みぞ果発生率 (%)
1	70	900 (± 91 <sup>a</sup> )	0.91 (±0.02 <sup>a</sup> )	50.0	35.7
2	85	1,025 (±103)	0.92 (±0.02)	35.7	14.3
3	90	1,019 (± 83)	0.91 (±0.02)	17.6	17.6
4	85	922 (± 51)	0.92 (±0.01)	22.2	55.6

a) 信頼率95%の信頼区間を示す

[その他]

試験研究課題・事業名：新高ナシの超早期出荷技術開発

予算区分：県単

研究期間：平成10～14年度

関連情報等：平成2年度試験研究主要成果：新高の摘果の際に残す番花

平成7年度試験研究主要成果：ハウス栽培‘新高’の受粉適期の把握

平成8年度園芸学会中四国支部：受粉時期の早晩がハウス栽培ナシ

‘新高’の結実と果実形質に及ぼす影響